

再 処 理 施 設 の 使 用 計 画

2025再計発第298号
2026年1月28日

別紙

原子力規制委員会 殿

住 所 青森県上北郡六ヶ所村大字尾駁字沖付4番地108
氏 名 日本原燃株式会社 代表取締役社長 社長執行役員 増田 尚宏

核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第46条の4及び使用済燃料の再処理の事業に関する規則第7条の13第1項（第2項、第3項）の規定により次のとおり届け出ます。

工場又は事業所		名 称 再処理事業所						再 処 理 設 備 の 系 列 名		再処理設備						
		所 在 地 青森県上北郡六ヶ所村大字尾駁						年間の最大再処理能力（トン）		800						
年度別	期 別	使用済燃料受入れ量		再 処 理 量		期 末 在 庫 量		プルトニウム製品		ウ ラ ン 製 品		そ の 他 の 有 用 物 質		期 末 在 庫 量		
		燃料体数 (体)	ウランの量 (トン) ※1	燃料体数 (体)	ウランの量 (トン) ※1	燃料体数 (体)	ウランの量 (トン) ※1	生産量 (kg) ※1, ※2	払出量 (kg) ※1, ※2	生産量 (トン) ※1, ※2	払出量 (トン) ※1, ※2	生産量 (kg)	払出量 (kg)	プルトニウム製品 (kg) ※1, ※2	ウラン製品 (kg) ※1, ※2	その他の有用物質 (kg)
2026年度	上 期	0	0	0	※5 0	BWR 8583 PWR 3486	BWR 1484 PWR 1484	0	0	0	0	—	—	6658	365548	—
	下 期	0	0	0	※5 0	BWR 8583 PWR 3486	BWR 1484 PWR 1484	0	0	0	0	—	—	6658	365548	—
	計	0	0	0	※4 0			0	0	0	0	—	—			
2027年度	上 期	0	0	0	※5 0	BWR 8583 PWR 3486	BWR 1484 PWR 1484	0	0	0	0	—	—	6658	365548	—
	下 期	0	0	未定	※5 70			※6 1655	0	※6 100	0	—	—	8313	465729	—
	計	0	※3 0	未定	※4 70			1655	0	100	0	—	—			
2028年度	上 期	未定	未定	未定	※5 60			970	0	55	0	—	—	9283	520670	—
	下 期	未定	未定	未定	※5 110			1779	0	101	0	—	—	11062	621393	—
	計	未定	※3 130	未定	※5 170			2749	0	156	0	—	—			
合 計		未定	130	未定	240			4404	0	256	0	—	—			

〔燃料体の種類の略号〕 BWRは発電用の軽水減速、軽水冷却、沸騰水型原子炉の使用済ウラン燃料を示す。PWRは発電用の軽水減速、軽水冷却、加圧水型原子炉の使用済ウラン燃料を示す。

注 記： ウランの量は照射前金属ウラン質量換算とする。
プルトニウム製品は、ウラン・プルトニウム混合酸化物製品の金属ウラン及び金属プルトニウムの合計質量換算とする。
ウラン製品は、ウラン酸化物製品の金属ウランの質量換算とする。
ウラン試験に用いた劣化ウラン（金属ウラン質量換算：51.7 t・U）は、ウラン製品には含まない。
使用済燃料による総合試験中の再処理量等を含む。
原子力発電における使用済燃料の再処理等の実施及び廃炉の推進に関する法律第54条に規定する使用済燃料再処理等実施中期計画に基づき再処理を行う。
本計画は、今後、再処理する使用済燃料の具体化等を踏まえて、順次、詳細なものとしていく。

- ※1： 各欄毎に端数処理（四捨五入）を実施しているため、各数量の和が一致しない場合がある。
※2： 再処理する使用済燃料のタイプや時期等により変動し得る数値である。
※3： 当該数量は、当社が再処理施設の運転見通しや設備の更新時期等を考慮の上で設定した、技術的に達成可能な再処理可能量をもとに想定した数量である。
具体的な受入れ量は、特定実用発電用原子炉設置者から計画が通知された後、当該通知に基づく数量となる。
※4： 当該数量は、原子力発電における使用済燃料の再処理等の実施及び廃炉の推進に関する法律第54条に規定する使用済燃料再処理等実施中期計画に基づく数量である。
※5： 当該数量は、当社が再処理施設の運転見通しや設備の更新時期等を考慮の上で設定した、技術的に達成可能な再処理可能量である。
原子力発電における使用済燃料の再処理等の実施及び廃炉の推進に関する法律第54条に規定する使用済燃料再処理等実施中期計画が認可され、数量に変更がある場合は、本使用計画を変更する。
※6： 製品生産量は、当該年度の再処理量から見込まれる製品生産量に、工程内に存在しているウラン及びプルトニウムの量を加えた数値である。